

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾ゆうゆう日吉		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の作成・共有・実施が非常に丁寧で、保護者からの評価も高い。アセスメント・モニタリングを適切に行い、計画に沿った支援が実践されている。	支援前後の打ち合わせや記録の徹底、ヒヤリハット共有など、チームで支援を行う体制が整っている。PDCA意識も高い。	学習スペースと遊びスペースの明確な区切りを強化し、集中しやすい環境整備を進める。
2	活動プログラムが充実しており、固定化しないよう週替わり・季節行事・外出活動など工夫がされている。子どもが楽しみに通所している様子が評価に表れている。	2フロアを用途別に使い分け、運動・学習を分離するなど構造化環境を意識している。階段手すり設置など安全配慮も行っている。	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の体系化を検討し、家庭支援機能を強化する。
3	活動プログラムが充実しており、固定化しないよう週替わり・季節行事・外出活動など工夫がされている。子どもが楽しみに通所している様子が評価に表れている。	自己決定を育む支援として、ゆうゆうドルを用いた買い物学習など意思決定の機会を提供している。	地域連携・地域交流の機会を増やし、「地域支援」の観点を強化していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学習と遊びの空間が共用であり、集中しにくい場合があるとの意見がある。	建物構造上、空間を完全に分離できないため、仕切りやレイアウト工夫が必要。	地域交流は実施しているが、目的を持った継続的な交流には至っていない。
2	職員配置について時間帯や送迎状況によっては少なく感じることもある。	建物構造上、空間を完全に分離できないため、仕切りやレイアウト工夫が必要。	パーティションや収納工夫により視覚刺激を減らし、学習環境を整備する。
3	地域交流や児童館等との交流機会が限定的である。	2フロア体制や送迎タイミングにより、一時的に人員が分散してしまう。	地域交流・児童館連携・センターとのスーパーバイズ活用など、外部連携を強化する。